

弱い建築

指導教員 吉松 秀樹教授 印

OBEB1119 大野 正樹

1. 建築のもつ強さ

自分が住んでいる愛甲郡愛川町を調査した際、ある空間を通り抜けるのをためらうことに都市の冷たさを感じ興味をもった (fig.1)。これは、内部と外部を完全に切断してしまう建築の強さ (fig.2) と考え、建築を弱くすることで内部と外部を切り離している境界を感じないものにできるのではないかと。



(fig.1) 強さを主張する空間



(fig.2) 強い建築

2. 弱さとは

弱さは2つに分類される。素材・構造が弱く脆弱である物理的な弱さと、意志・決意の弱い緩みである心情的な弱さがある。都市で感じた弱さは心情に働きかける弱さであることが分かった。

3. 弱さから建築

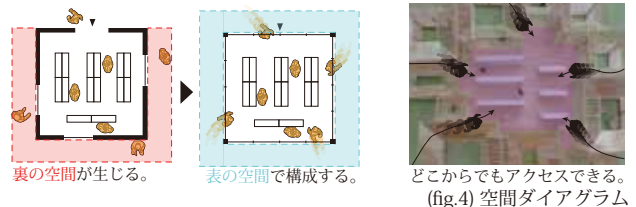
内部と外部を分断させる建築 (fig.3) の形態に、弱さを与え建築の原型を崩し内部と都市を弱く繋げられる。これより、従来の図書館や美術館に対して敷居を低くするのではなく生活の一部に溶け込み、繋がれたものとなるを考える。



(fig.3) 構えの強い建築

4. 大きな公園建築

図書館を中心に周囲の建築と縁側でつなげ 360° 開いた裏のない図書館とし、周囲から図書館への視線が通り生活の中に図書の風景が取り込まれる (fig.4.5)。これより、物理的に空間は分断されていても図書館との連続性を生み、空間を切り取る建築を弱くする (fig.6.7.8)。



裏の空間が生じる。

表の空間で構成する。

どこからでもアクセスできる。
(fig.4) 空間ダイアグラム

図書館に馴染みがない。

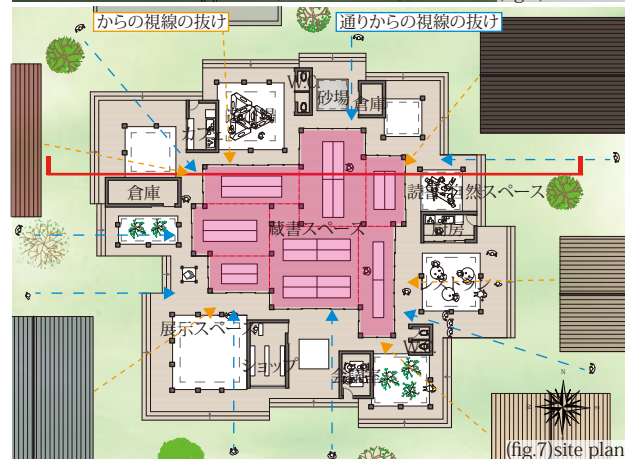
庭の延長が縁側になる。

生活との間に中間領域を作る。

(fig.5) 縁側によって都市と繋ぐ



(fig.6) 模型写真



(fig.7) site plan



(fig.8) section